



からしだね

2022年8・9月号
(583号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

6人の若者が前田大司教により
堅信の秘跡を授けられる
前田大司教のミサ説教の要旨

8・9月のガラスケースのみ言葉
8・9月のみ言葉についての解説
「マニラ学生支援金」への協力をお願い
恒例のクリスマスカード作成をお願い
聖堂が『JIA建築年鑑2021-2022』に掲載されました。

大人の日曜学校 ルカ9:51-62

「(泊まらないけど)お泊まり会」が開催!

『からしだね』9月特集号の原稿を募集しています

宝塚黙想の家からのお知らせ

表紙の写真について

6人の若者が前田大司教により堅信の秘跡を受けられる



前田万葉大司教が池田教会へお出ましくださって、7月10日の10時30分から始まる第15主日のミサを司式され、池田教会の若き信者6人に堅信の秘跡を受けられた。ノイ・プラザ主任司祭、御受難会の稲葉善章司祭、畠基幸司祭が共同司式者として加わり、堅信の秘跡をとともに祝った。

前田大司教はミサに先立ち、祭壇や十字架、会衆に向かって聖香を振りかけて清められた。福音の朗読のあとの説教で、前田大司教は、洗礼によってキリスト者となった6人のみなさんが、司教の按手と塗油により堅信の秘跡を受けられて、信仰を深め、キリストの愛と死と復活のあかしびととなりますように、と祈られた。

(その要旨は次ページをご覧ください)

いよいよ堅信の秘跡が始まった。黄金に輝く司教冠ミトラをかぶり、光り輝く牧者の杖、司教杖を手にして威儀を正した前田大司教が秘跡を執り行われた。名前を読み上げられた6名は、教会の信仰を固く守り、力強くあかしすることを約束してから、前田大司教の按手を受けた。共同司式者の司祭たちも手を掲げて祝福を送られた。続いて受堅者は代父母の手を肩に置かれて、司教から聖香油で額に十字の塗油をしていただいた。そのあと6人で祈りをとなえ、按手と塗油を受けた印の堅信授与証明書と記念

品が贈られた。こうして堅信式が滞りなくめでたく終わった。

一人前の信者となった6名は喜び祝う信徒たちから拍手が送られた。最後にノイ・プラザ主任司祭が、前田大司教と堅信式の準備をした方々への感謝の言葉を述べられた(詳細は4ページを参照)。池田教会は今日、キリストをあかしし、教会を支える6名の頼もしい若き仲間を得た。

受堅者のことば

青少年育成委員会

中学生の受堅者6人は、この日のために稲葉神父のご指導による「堅信準備の集い」に参加し、堅信を受けるとはどのようなことなのかを学んできました。それぞれの感想の言葉には、大人の信者として一歩踏み出した今の思いや、今まで自分を支えてくれた池田教会の方々への感謝の気持ちが表れていました。

① マリア S.S.さん

堅信式を終えての一番の感想は、無事に終わりホッとしたということです。安心した理由は、今回の堅信の秘跡を授かるメンバーの中では最年長であり、責任を感じていたからです。これからは自分の考えを持ち、責任感のある行動ができるようになって、自立していけるよう頑張ります。多くの方にお世話になり感謝致します。ありがとうございました。

② マリア・テレジア H.I.さん

私は「堅信を受ける事に意味があるのか」と思っていました。稲葉神父様の勉強会に参加していくうちに、これは「人生の第一歩なんだな」と思えるようになりました。トマス・アクィナス前田万葉大司教様が池田教会に来てくださり堅信の秘跡を授けてくださったので、受けて良かったと心から思います。ありがとうございました。池田教会の方、準備して下さった人達にも感謝しています。

③ラファエル H.K.さん

最初はどういう意味があるかよくわからなかったけれど、堅信の集いの中で段々堅信について理解してきてしっかり準備できた状態で受けられてよかったです。これから池田教会の一員として頑張っていきます。

④ビンセンチオ R.A.さん

堅信を受けることが出来て本当に良かったです。カトリック信者として周りにたくさんいいことをもたらすことができるようにしたいです。池田教会の皆さん、これからも僕のことをよろしくお願いします。

⑤ペトロ S.M.さん

堅信を受けて感じたことは「成長したな」と言うことです。洗礼は幼児洗礼であったため、両親の判断であり自分の決めたことではありませんでした。しかし、堅信は自分の判断したことであって、それだけ自分で決めることが出来ることが多くなったからです。また、洗礼では新しい命が与えられるのに対して、堅信では自由と責任が与えられるからです。堅信式では自分の成長が感じられました。

⑥幼きイエスの聖テレジア N.W.さん

堅信式の勉強では、堅信を受け大人の信者となることは自由と責任が伴うということが分かりました。また、キリストの弟子であるということを思い出しながら生活を送ることの大切さも分かりました。このような、稲葉神父様が教えて下さった多くのことを信仰生活に活かしていきたいです。大司教様が堅信式を授けに来て下さったり、稲葉神父様勉強を教えて下さったことなど様々な方から恵みを頂いていると思いました。ありがとうございました。

(4ページに続く)

前田大司教の説教の要旨

ただいまから堅信を受ける6名の方が、司教の按手と聖油の塗油により、たしかに聖霊を受け、キリスト教会のより完全な一員になりますように、大人の信者となりますように、そしてキリストのあかし人となりますように。

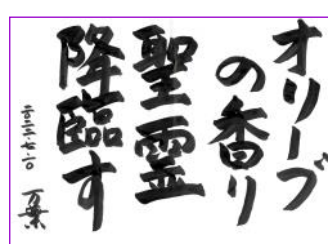
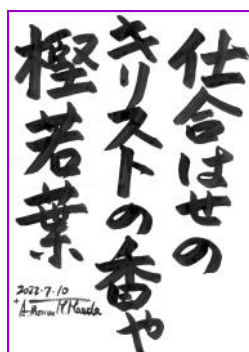
聖霊降臨のできごとは、6月の聖霊降臨の主日から間がないので、記憶に新しいと思います。弟子たちがキリストについて口にすることさえできず、ただ黙って集まっていたとき、とつぜん、天から大きな風の音がして、炎のような舌の形となった聖霊が弟子たちそれぞれの頭にくぐりました。それ以後、弟子たちはひるむことなくキリストの愛と死、復活のあかしを語り始めました。教会の原動力になったのは、聖霊降臨だったのです。初代教会のころから、洗礼は受けたけれど、堅信は受けていない人々に十二使徒が按手をして堅信を授けました。聖パウロは、どこへ行ってもキリストのよい香りをもたらす者となるように、キリストのよい香りとなるように、と教えています。

受堅者を励ます気持ちを俳句3句にいたしました。(4ページの写真参照)

今日の福音(ルカ10:25~37)では、よきサマリア人のたとえが読まれました。よきサマリア人にならって、まことの隣人となりましょう。それこそがキリストのあかしびととなることなのです。

今日の第一朗読には、「み言葉はごく近くにあり」(申命記30:14)とありました。堅信を受けた者は聖書をよく読みなさいということです。第二朗読では「御子は、見えない神の姿であり」(使徒パウロのコロサイの教会への手紙(コロサイI:15))と読み上げられました。あかしびととなるには、キリストをよく知らなければなりません。6人のみなさんがいつも聖霊へ祈り、キリストのあかしびととなるように、堅信の秘跡の授与をおこないたいと思います。

(文責 広報委員会)



前田大司教は説教を俳句の形で示され、その揮毫を池田教会に贈られた。

ノノイ主任司祭による堅信式閉会のことば

今日は、わたしたちの小教区にとって記念すべき日です。池田教会で堅信式を行ったのは、久しぶりです。以前の堅信式は、北摂地区として行なわれてきましたが、パンデミックのために、一時的に停止されたからです。そして、わたしたちの小教区の若いメンバーに堅信の秘跡を授けてください、という願いを前田万葉大司教さまは、快く受け容れてくださいました。堅信を受けられたみなさん、そして、ご家族、友人のみなさんにも、感謝します。聖霊が、わたしたちの主、イエスに従いたいというみなさんの望みにおいて、みなさんを励まし、強め続けてくださいますように。また、堅信を受けられる方々の準備と堅信式の挙行に助力を惜しまなかったジョゼフ・稲葉神父さまと小教区のすべての委員会の方々に感謝します。



前田大司教が受堅者の名を唱えて、接手。



堅信授与証明書と記念品が大司教より6名の受堅者の一人ひとりに贈られた。

8月～9月のガラスケースのみ言葉
 あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、
 まず、この女に石を投げなさい

ヨハネ 8章7節
 (福音宣教委員会撰)

8月・9月のみ言葉についての解説

中村克徳 C.P.

最近は何事につけ苦情を言うのが当たり前の社会になっています。購入した商品に欠陥や不備がある場合はもちろんのこと、店員の態度が気に入らなかったり配達が遅かったりした場合にも苦情を申し入れるケースがしばしばあるようです。苦情を言わないにしても、同様の思いを抱いたことのある人は多いのではないのでしょうか。

もちろん購入した商品やサービスに問題があった場合、相手先に不備を訴えるのは消費者の正当な権利です。とは言え、先方に非があるのだから多少は厳しい口調で文句を言うのは当然だという考え方が大勢を占めるようになれば、新たな問題を引き起こしかねません。中には相手が対応に苦慮するような状況を取って作り上げることで、そこから利益を引き出そうと悪知恵を働かせる人もいます。

今月のみことばは、このような身勝手な風潮を根本から戒める教えが語られています。イエスが神殿の境内で人々に福音を宣べ伝えていると、姦淫の罪を犯した女性が律法学者やファリサイ派の人々によってイエスの前に連れてこられました。ユダヤ教の律法に照らせば死刑に該当する重罪ですが、彼らは取って「あなたはどうかお考えになりますか？」とイエスに質問します。「赦してやりなさい」と言えば、律法を守らない反逆者となり、「律法に従って石打の刑にせよ」と答えたならば、ローマ帝国によって死刑を禁じられたイスラエルにおいて、ローマ帝国の法律に従おうとしない反逆者になってしまうのです。このような悪意ある質問を投げ掛けた人々は、自分たちにこそ正義があると心底から思い込んでいます。

レビ記20章10節によれば、罪を犯した男女の両方が等しく裁かれなければなりません。男性はおそらく逃げてしまったのでしょう。この女性だけを律法違反者としてイエスの前に引き出した人々は、男女両方が揃っている状況に拘るよりもイエスが窮地に陥るお膳立てを整えばそれでよしと考えているようです。そこに真の正義はあるのでしょうか。

執拗に答えを求める告発者に対して、イエスは単純明快な言葉で答えます。「あなたたちのうちで罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」と。この言葉に彼らは戸惑い、年長者から一人、また一人と、石を置いてその場を後にしていきました。人間は長い人生の旅路の中で、様々な経験を積みます。あるときには意図せずとも神様と隣人に対して顔向けできない過ちを犯してしまうのが人間なのです。そのような自分を顧みることなく、他者の罪を材料にしてイエスを罫に嵌めようと画策した人々は、いやおうなしに自分自身を振り返った時、我こそが告発されるに相応しい人物であることに気がついたのです。

一人残された女性にイエスは声を掛けます。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。もう罪を犯してはならない。」わたしたちは様々な失敗を神様と隣人からゆるしていただくことで現在に至っています。それを忘れることがないようにしたいものです。

「マニラ学生支援金」への 協力をお願い

社会活動委員会

いつも社会活動委員会の活動にご協力頂きありがとうございます。

社会活動委員会が定期的に関わっている支援先はいくつかありますが、そのうちの一つである「マニラ学生支援金」（旧：マニラ子ども支援金）については支援継続が難しくなってきました。

「マニラ学生支援金」は聖母被昇天会のフィリピン人のシスターからの依頼を受け、マニラで暮らしている援助の必要な女子学生の生活援助をする目的で30年以上前に始められました。

この支援プログラムは、賛同して頂いた方に毎月一口あたり500円をご寄付頂いて、卒業するまでの四年間をサポートし、その学生の卒業後には次の学生を選出してまた卒業までサポートする、というものです。一口500円という金額は、当時の婦人会のメンバーが「日々の生活の中で小さな犠牲を払うことで支援に参加できる額」と考えて決めました。開始当初は2人の学生を援助できていましたが、物価の高騰などもあり、現在は日本とフィリピンにルーツを持つ一人の学生をサポートしています。

学生一人の支援には一年間で日本円でおよそ24万円ほどが必要とのことですが、現在はその3分の2程度の支援金しか集まっていません。

教育を必要とする学生を支援することは、彼らが将来的に貧困から抜け出すことにつながります。今後もこの活動を続けるために、新たにこの支援プログラムに関わってくださる方を募集します。何口でも構いません。ご協力いただける方は社会活動委員会の新免・杉山、またはその他の社会活動委員会のメンバーにお知らせください。

恒例のクリスマスカード 作成をお願い

社会活動委員会

送り先は、川西地区の久保昌子さんが長年交流されている南アフリカのセントフランシスカアセンターです。

そこで暮らす、エイズ孤児達へのクリスマスカードを今年も送りたいと思っています。

コロナの影響で今年中に届くかわかりません…。ですが、池田教会の皆さまのお祈りと、子ども達への思いをカードに込めて届けたいと、願っています。

8月下旬よりお御堂（聖堂）入り口に色画用紙と回収ボックスを置いておきます。

締め切りは9月25日（日）迄です。

カードには、お名前や似顔絵、写真などがあると、とても喜ばれるそうです。

日本語で書いたカードも英語に訳しますのでご安心下さい。

ご協力よろしく願いいたします。

聖堂が『JIA建築年鑑2021-2022』に 掲載されました

2020年の聖堂改修工事の設計を依頼したN2設計の設計作品が『JIA建築年鑑2021-2022』（日本建築家協会発行）の保存再生プロジェクト部門に於いて、約100作品の中に選出され、その設計理念および四様の聖堂の内部写真・外部写真や設計平面図と断面図、骨組み図などが年鑑に掲載されました。『JIA建築年鑑2021-2022』の一冊がN2設計から寄贈され、カール記念館玄関ホールの書棚に置かれています。



大人の日曜学校だより	ルカ9：51-62	6月26日	研修委員会
------------	-----------	-------	-------

月末最後の主日ミサ後は「大人の日曜学校」開催となる。いつものとおり、10名近くが参加した。その日の福音朗読箇所から心に残った言葉を互いに紹介し、話題は発展してゆく。おなじみのスタイルである。

きょうは自死について、ほぼ全員が発言を重ねてゆくことになった。というのも、福音箇所は殉教を決意したイエスが、エルサレムにむけていよいよ旅を本格化しようとするところだったから。福音を広めるためには、師イエスばかりか弟子たろうとする者も覚悟が必要となる。家族への思いを断ち切れない三人の弟子志願者にたいする主の言葉は、断固としてゆるぎなく、思わず身が引き締まるほどだが、けっきょくは彼らはイエスに従うことができなかつたようにもみえる。

死ぬ思いでことにあたる、などという。きょうの福音でいうと、死を恐れず宣教にはげめ、ということになるのだろうか。だがじっさいには、困難に立ち向かうことができないまま、命を絶つ人もすくなくはない。原因はさまざまだろう。参加者からは病、生活苦や絶望といった古典的な原因によるものが語られたが、なかには最近の（特に学校での）イジメと死をめぐる若者の苦しみを紹介されることもあった。自死をこころの「病」（やまい）と解釈する考え方が最近では定着し、教会も柔軟な立場をとっている。若い命が、こともあろうに教育現場での対人関係が原因となって失われるようなことはあつてはならない。死ぬ思いで苦しみを耐える先には、将来へのあかるい展望が開かれねばならないだろう。あかるい話題ではないが、分かち合いたい問題ではある。

「（泊まらないけど）お泊まり会」開催！	青少年育成委員
---------------------	---------

7月16日（土）、お泊まり会を二年半ぶりに開催しました。題して「（泊まらないけど）お泊まり会」。

今回は小中高合同ということで、小学1年生から高校2年生までの12人の子どもたちが参加してくれました。楽しくおしゃべりしながら食事をする、布団を並べて眠り、朝ご飯を一緒に食べてからミサにあずかる…これらはお泊まり会の醍醐味ですが、もうしばらくは断念せざるを得ません。

今回は宿泊はなしとし、食事もそれぞれ

がお弁当を持参して「黙食」という形にしました。短い時間ではありましたが、ミサについての勉強、体を使っての遊び、夕の祈りのひととき…とみんなで楽しく過ごし、沢山の笑顔を見ることが出来ました。

2年前には当たり前のように毎月繰り広げられていたこの光景を再び見られたことは、スタッフとしてとても感慨深いものでした。お泊まり会に限らず、教会での子どもたちの日常が早く元通りになるよう願ってやみません。



次号のテーマは「ノノイ神父のもとで5年間」(仮題)です。

原稿を募集しています

2012年9月に来日していた御受難修道会のノノイ・プラザ司祭は池田教会に2017年9月に協力司祭として赴任してこられ、翌年の2018年4月から畠基幸主任司祭の後任となりました。既に、ノノイ神父は母国フィリピンの管区で顧問を務め、御受難会本部の諮問委員として円熟した司牧者でした。聖書にある言葉に対する造詣が深いのは言うまでもなく、詩や音楽、聖壇の美を求め、現代的な情報技術や映像技術にも精通して、それらが円熟して、人に柔和で、人びとはノノイ神父のもとで神父の一面に驚きながら、その全貌を語る術に窮するばかりです。こよなく神に愛された方としか表現できません。

2018年6月の大阪北部地震によって、聖堂を安心して使えない状況を明らかになり、応急的な工事のために聖堂をカール記念館内に引越させた後で、聖堂の耐震診断の結果は耐震化工事を実施すれば以降30年間の使用が可能になるという見通しとなり、耐震委員会を設置して、古いトイレを広くしておむつ交換室を兼ねさせ、老朽化した空調の熱効率を上げるなどを加えた改修工事を実施する決断を得た。しかし、2020年3月1日から3カ月の長きに亘って新種のコロナ・ウイルスによる公開ミサが中止される異常事態で池田教会は最低のレベルの活動を余儀なくされ、教会を訪れる人が減少した間に、聖堂の改修工事は逆に進展しました。2020年8月末までの公開ミサが聖堂で再会されるまでの期間こそ、ノノイ神父の真価が発揮された期間であったのです。

ノノイ神父は主任司祭となられて以来の4年半は地震・コロナ禍と聖堂の大きな改修工事と展望の悪い道を柔和のお顔でわたしたちを導かれました。決して先頭に立って大声でわたしたちを誘導されたことはなかったのに、いつの間にかやり逃げられた聖堂のカール記念館への移動と回帰は、少人数の有志による大量の重い木製の椅子の運搬作業なしには不可能であったし、カール記念館への聖堂の移設が可能であると言いだされたのも他ならぬノノイ神父であったと聞く。また、マスクを着用し、社会的距離を置き、3回の分散した主日のミサに与れる方式は自由度が増して皆は喜んで受け入れた。しかし、3回に分散させるにはノノイ神父は勿論、典礼委や財務委、青少年育成委にも大きな負担を約2年間も強いたのであって、ノノイ神父の早期の決断とそれらの委員会の協力なしにどこでも実施される安易な策ではなかったのです。便利である、楽である、という理由で、日常の悪しき習慣の中に埋没している自分に気付くことの多い筆者ですが、これらの目立たないノノイ神父の英断や日常の柔和な所作や配慮あるお言葉に接する度に、子羊の牧者イエスを見る思いがする。

そのノノイ・プラザ神父が5年の任期を全うされて9月末をもって池田教会の主任司祭を退任されることとなった。今こそ、わたしたちの傍に居られたノノイ神父の何気ない所作でも、何気なく発せられた言葉でも、感謝を込めて記録し、池田教会の仲間の信徒の共有財としましょう。その時、信徒のわたしたちはノノイ神父に感謝し、「分かち合い」の成立した喜びを抱けるのです。

ノノイ神父についての隠れた記憶を記録するために、『からしだね』を9月中旬に発行します。皆様からのご投稿をお待ちしています。

メールアドレス：karashidane@catholic-ikedasakura.ne.jp

メモや封書の宛先：カール記念館一階受付 メールボックスの「広報委員会」

締め切り日：本年9月4日（日）

宝塚黙想の家からのお知らせ

8月は、黙想会は全休で、講座は「聖地エルサレムを学ぶ」と「聖書の基本」が開催されます。

- 日帰り黙想会 10:00~15:30
9月13日(火) 指導: 稲葉 善章 神父
9月22日(木) 指導: 染野 治雄 神父
9月23日(金) 指導: 山内 十束 神父
- 一泊黙想会
9月13日(火) 17:00~14日(水) 15:30
指導: 稲葉 善章 神父
9月30日(金) 17:00~10月1日(土) 15:30
指導: 染野 治雄 神父
- カトリック教会のカテキズム
第2・第4水曜日 10時~12時 (9月)
指導: 染野 治雄 神父
- 聖地エルサレムを学ぶ (8月と9月)
第3木曜日 10時~12時、
指導: 笹田六合豊 修道士
- ギリシャ語で味わう聖書のことば
第1火曜日 10時~12時 (9月)
指導: 稲葉善章 神父
- 聖書の基本 (8月と9月)
第1・第3日
水曜日 10時~12時
指導: 山内 十束 神父



上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797 (84) 3111

編集後記

パレスチナの地からユダヤ人の北王国が亡くなった頃に預言者イザヤが記したイザヤ記11章6節~9節は楽園をこんな風に描いている。

オオカミは子羊と共に宿り、
豹は小山羊と共に伏し、
子牛は若獅子と共に育ち、
小さな子供がそれらを導く、
牛は熊とともに草をはみ、
その子らはともに伏し、
獅子は牛のように藁をたべる。
乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、
乳離れした子は蝮の巣に手を伸ばす。
私の聖なる山のどこにも、
害を加えるもの、滅ぼす者はいない。
水が海を覆うように、
主を知る知識が地を満たすからである。

動物という生物にも人類には未知の共生の道を持たせている、と書いている。

インマヌエル

表紙の写真について

前田大司教をお迎えして、7月10日、第15主日に池田教会でおこなわれた堅信式のもようである。厳粛な雰囲気にも包まれながらも、未来への喜びにあふれた堅信式となった。コロナウイルス蔓延を危惧して、残念ながら、関係者と一部地区の信徒のみが列席した。